

共創の場形成支援プログラム【共創分野】

拠点名称：共生社会をつくるアートコミュニケーション共創拠点



代表機関	東京藝術大学	プロジェクトリーダー	伊藤 達矢 東京藝術大学 社会連携センター 教授
参画機関	東海国立大学機構・岐阜大学、京都大学、岡山大学、九州大学、横浜市立大学、長岡造形大学、慶應義塾大学、独立行政法人国立美術館、国立精神・神経医療研究センター、国立病院機構東京医療センター、熊本大学、中部学院大学、株式会社アトレ、株式会社今治、夢スポーツ、株式会社インビジ、NTTビジネスソリューションズ株式会社、オンロ株式会社、株式会社オリ研究所、株式会社QDレーザ、株式会社資生堂、株式会社小学館、SOMPOホールディングス株式会社、大日本印刷株式会社、株式会社乃村工藝社、野村不動産株式会社、ヤマハ株式会社、株式会社リクルート、小田急電鉄株式会社、社会福祉法人台東区社会福祉協議会、公益財団法人東京都歴史文化財団東京都美術館、一般社団法人プラスケア、一般社団法人岡山障害者文化芸術協会、医療法人社団同善会、一般社団法人コミュニティ&コミュニティホスピタル協会、東京都、石川県、岐阜県、愛媛県、取手市、浦安市、川崎市、名張市、三豊市、熊本市		

プロジェクトの概要

NEXT SDGsとして「こころの豊かさ」を掲げ、誰もが生涯を通じて自分らしくいられる「居場所」と「出番」をもち続け、幸福で健康的な生活を送れる社会を目指す。

しかし、こうした未来のありたい社会像の実現を阻害するのが、超高齢化社会における「望まない孤独や社会的孤立」である。

これを乗り越えるために、本拠点ではアートと福祉・医療・テクノロジーを融合させ、多様な人々と社会とを結ぶ「文化的処方」（社会的処方の援用）を開発し、孤独孤立及び精神的貧困の解決に取り組む。

これにより、幸福度の向上、生産的活動に参加する人口の拡大、新たな経済価値の創出、社会保障支出の縮減及び、健康状態の回復・予防に係る継続的な効果を達成する。

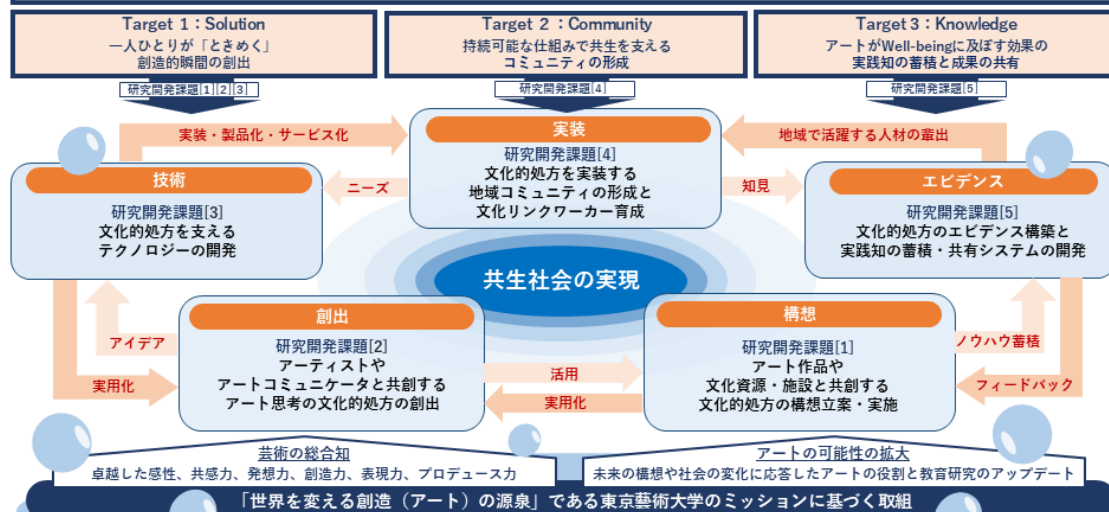
拠点を掲げる2030年以降にありたい社会像

誰もが生涯を通して社会に参加でき、生きがいと創造性を持って、精神的に豊かな生活を楽しむことのできる共生社会

- ・あらゆる壁や境界を融かす「アート」によって、一人ひとりが「ときめき」を感じながら生きる。
- ・多様な価値観を認め合い、助ける、助けられるの二元論を越えた「緩やかなつながり」を実現。
- ・新しい楽しみや出会いが次々と生まれる「苗床」が世界中に広がる。



福祉・医療・テクノロジーと融合したアートコミュニケーションによる 誰もが「自分らしく」いられる共生社会の実現



拠点の掲げる2030年以降にありたい社会像

誰もが生涯を通して社会に参加でき、生きがいと創造性を持って、精神的に豊かな生活を楽しむことのできる共生社会

- あらゆる壁や境界を融かす「アート」によって、一人ひとりが「ときめき」を感じながら生きる。
- 多様な価値観を認め合い、助ける、助けられるの二元論を越えた「緩やかなつながり」を実現。
- 新しい楽しみや出会いが次々と生まれる「苗床」が世界中に広がる。

1 貧困をなくそう

3 すべての人に健康と福祉を

8 働きがいも経済成長も

9 産業と技術革新の基盤をつくろう

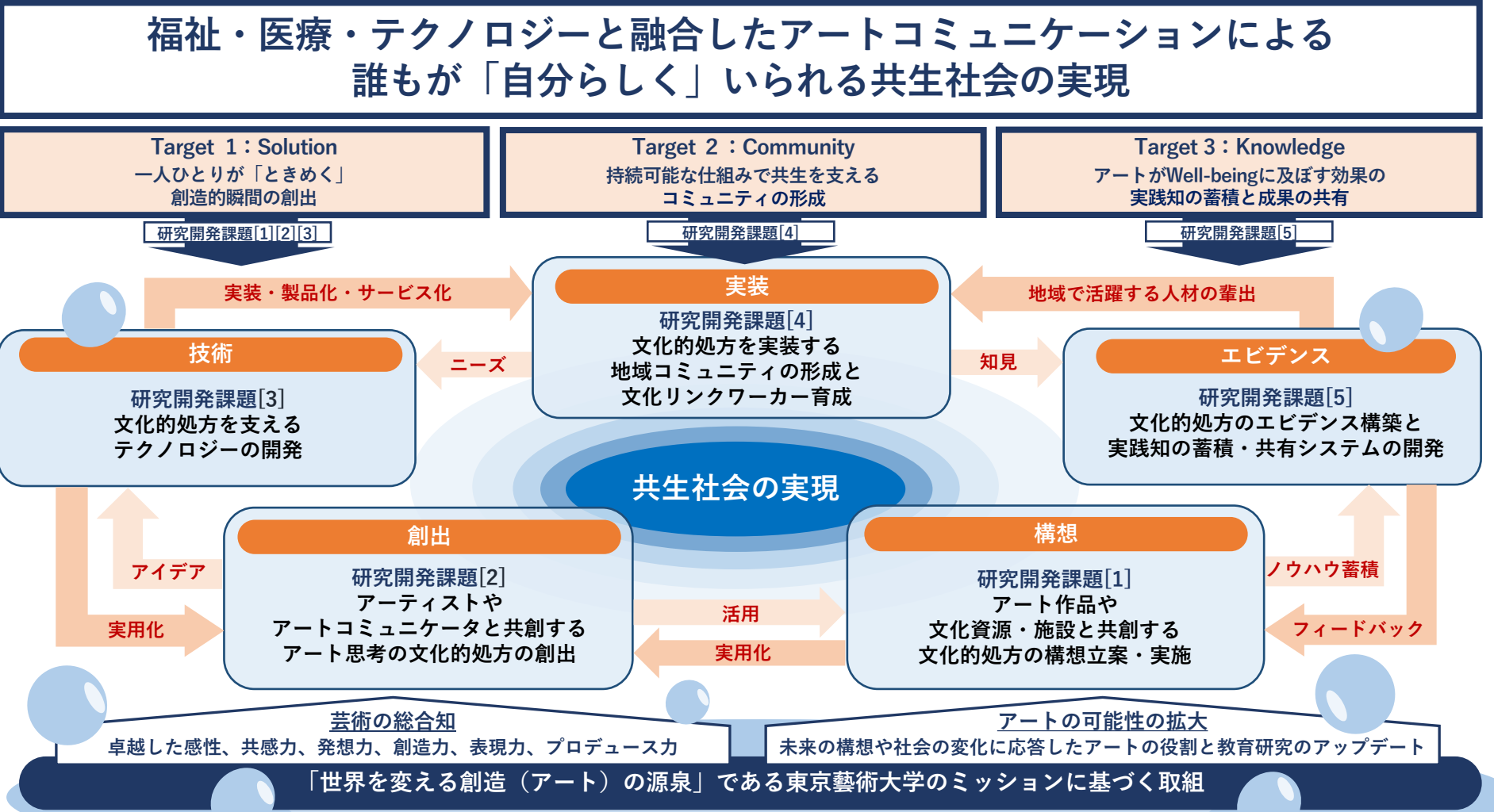
11 住み続けられるまちづくりを

17 パートナリシップで目標を達成しよう



NEXT SDGs

NEXT SDGsにおいては一人ひとりの「こころの豊かさ」を重要な概念とする必要性を提起していく。



拠点名称：共生社会をつくるアートコミュニケーション共創拠点

代表機関：東京藝術大学

プロジェクトリーダー：伊藤 達矢（東京藝術大学 社会連携センター 教授）

研究開発課題1「アート作品や文化資源・施設と共創する文化的処方の構想立案・実施」の目標		年度
中間目標1	ミュージアム処方箋のプロト実装	2026
PoC達成目標1	ミュージアム処方箋の体系化	2028
最終目標	文化的処方プラットフォームの構築	2032
研究開発課題2「アーティストやアートコミュニケータと共創するアート思考の文化的処方の創出」の目標		
中間目標2	アーティスト等との共創による文化的処方創出の仕組み構築	2025
PoC達成目標2	アート思考による文化的処方の作り方の体系化	2027
最終目標	多様な属性に応じた文的処方コンテンツの実装	2031
研究開発課題3「文化的処方を支えるテクノロジーの開発」の目標		
中間目標3	新しい芸術表現やアクセシビリティに関する知財の創出	2026
PoC達成目標3	企業等による文化的処方の事業化、製品化	2028
最終目標	企業等の事業化による多様な収益源の確立	2031
研究開発課題4「文化的処方の地域コミュニティの形成と人材育成」の目標		
中間目標4	複数タイプの先行地域における文化的処方の実践	2025
中間目標5	文化リンクワーカー育成プログラムの確立	2027
PoC達成目標4	地域主導のモデル構築（定着化・仕組化・制度化）	2028
最終目標	文化的処方の社会制度化	2032
研究開発課題5「文化的処方のエビデンス構築と実践知の蓄積・共有システムの開発」の目標		
中間目標6	文化資本とウェルビーイングの評価ツールの開発	2025
中間目標7	文化的処方モデル活動を2地域で展開・継続	2026
PoC達成目標5	住民のウェルビーイング向上・その格差の縮小が証明された地域実装モデルの複数創出	2030
最終目標	文化的処方による社会的便益の理論化・効果評価スキームの普及・測定ツールの普及	2032

拠点名称：共生社会をつくるアートコミュニケーション共創拠点

代表機関：東京藝術大学

プロジェクトリーダー：伊藤 達矢（東京藝術大学 社会連携センター 教授）

研究開発課題	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目	9年目	最終年度	
1：アート作品や文化資源・施設と共創する文化的処方の構想立案・実施	ミュージアム処方箋の開発		【中間目標1】 ミュージアム処方箋のプロト実装	リアル＆オンラインでの他者とのコミュニケーション環境の構築		【PoC達成目標1】 ミュージアム処方箋の体系化	各地域の特性に応じた文化的処方の導入パッケージを体系化			【最終目標】 文化的処方プラットフォームの構築	ターゲット1「一人ひとりが「ときめく」創造的瞬間の創出の実現」
	移動ミュージアムの開発										
	海外ベンチマーク調査・国際交流・海外展開										
2：アーティストやアートコミュニケーションと共創するアート思考の文化的処方の創出	藝大内から文的処方のアイデア公募		【中間目標2】 アーティスト等との共創による文化的処方創出の仕組み構築	孤立孤独の解決に効果的な文化的処方の要素を整理	【PoC達成目標2】 アート思考による文化的処方の作り方の体系化	文化的処方の創出レシピに沿ったコンテンツ開発を加速		【最終目標】 多様な属性に応じた文的処方コンテンツの実装			
	先行する文的処方コンテンツの実証実験										
3：文化的処方を与えるテクノロジーの開発	参画企業の有する技術を共有する環境の整備		【中間目標3】 新しい芸術表現やアクセシビリティに関する知財の創出	新しい芸術表現とアクセシビリティを支える技術の実証実験		【PoC達成目標3】 企業等による文化的処方の事業化製品化	製品・サービスの収益化及びスケールアウト	【最終目標】 企業等の事業化による多様な収益源の確立			ターゲット2「持続可能な仕組みで共生を支えるコミュニティの形成」の実現
	身体・空間的なアクセシビリティのニーズ確認＆新しい芸術表現を実現するプロト開発										
4：文化的処方の地域コミュニティの形成と人材育成	先行地域（都心型/郊外型）の環境や実情等を踏まえたコミュニティ基盤づくり		【中間目標4】 複数タイプの先行地域における文化的処方の実践	先行実践に基づく育成プログラムの改善	【中間目標5】 文化リンクワーカー育成プログラムの確立	【PoC達成目標4】 地域主導のモデル構築（定着化・仕組化・制度化）	文化的処方実装の自治体ネットワークの構築			【最終目標】 文化的処方の社会制度化	
	文化リンクワーカーの対象や資質の定義						文化リンクワーカーのネットワークと活動事例の共有				
5：文化的処方のエビデンス構築と実践知の蓄積・共有システムの開発	文化資本評価ツール策定や観察研究	【中間目標6】 文化資本とウェルビーイングの評価ツールの開発	指標の運用	【中間目標7】 文化的処方モデル活動を2地域で展開・継続	効果検証の長期介入研究及び地域レベルでの社会的便益の効果検証	【PoC達成目標5】 住民のウェルビーイング向上・その格差の縮小が証明された地域実装モデルの複数創出	文化的処方の効果測定ツール等の共有システム化			【最終目標】 文化的処方による社会的便益の理論化・効果評価スキームの普及・測定ツールの普及	ターゲット3「アートがWell-beingにおよぼす効果の実践知の蓄積と成果の共有」の実現
	地域実装の効果検証をする介入研究に向けた基盤づくり				個人の行動変容を促す心理的效果の立証	企業の健康経営等へ導入（孤立孤独予備軍への処方）					